

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「私たちの十字架」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。」(コロサイ1:20) 2017年大齋節聖句

別れと出会いの季節、新しい一歩を踏み出す季節になりました。教会の暦は大齋節に入り、喜びのイースターを迎える準備の期節を過ごしています。大齋節になるといつも、「私だけの十字架」という、小学生の頃に見たある刑事ドラマのエンディング曲を思い出します。自らの負い目を歌う悲しいメロディーなのですが、はたして十字架は自分一人で背負うべきものなのかと考えてしまいます。

共観福音書の中にも「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」との言葉がありますが、イエスさまの十字架の血によって救われているのは、自分だけではないはずです。確かに、私だけが背負わなければならない十字架もあると思いますが、その十字架と一緒に背負ってくれる仲間がいれば、その荷は負いやすく、平和と和解への近道になるのではないのでしょうか。

そういう意味で「私たちの十字架」として、私たちの足りなさや、ずるさや、まずしさを引き受けてくださったイエスさまの十字架を心に刻みます。その十字架の愛に少しでも応えようと、私たちは洗礼を受け、日曜日毎に教会に集い、イエスさまの体と血であるパンとブドウ酒にあずかり、再び遣わされていきます。

「十字架の言葉は、減んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」(1コリ1:18) とパウロが宣言するように、本来は張り付け刑の道具であるはずの十字架が、福音・よき知らせとして愛の象徴となる、その逆説の真理へと導かれる信仰に生かされていることを感謝したいと思います。

□会議・プログラム等予定

(3月25日以降)

3月

- 28日(火) 管区共通聖職試験委員会〔管区事務所〕
- 31日(金) ～4月1日 各教区ハラスメント防止・対策担当者会〔名古屋〕

4月

- 5日(水) 会計監査〔管区事務所〕
- 6日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 17日(月) 青年委員会〔管区事務所〕
- 20日(木) 常議員会〔管区事務所〕
- 21日(金) 正義と平和委員会〔京都教区センター〕
- 27日(木) 祈祷書改正委員会〔管区事務所〕

5月

- 11日(木) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 12日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教大学〕
- 17日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト〔管区事務所〕
- 23日(火) ～25(木) 新任期研修会〔大阪・奈良〕
- 25日(木) 人権問題担当者会議〔大阪〕
- 25日(木) 文書保管委員会

<関係諸団体会議・他>

- 3月28日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会〔管区事務所〕
- 28日(火) ～31日(金) 国際青年会議〔京都〕
- 4月7日(金) NCC 主催宣教会議 2018 第3回プレ集會実行委員会〔管区事務所〕
- 8日(土) マイノリティ宣教センター 開所礼拝・理事会〔早稲田〕
- 10日(月) 「同宗連」総会〔京都〕
- 11日(火) JETS分かち合いの会〔早稲田〕
- 25日(火) 大韓聖公会ソウル教区主教授手式・就任式〔ソウル〕
- 27日(木) マイノリティ宣教センター運営委員会〔早稲田〕

＊4月14日(金)は受苦日のため、管区事務所業務をお休みいたします。よろしく願いいたします。

(次頁へ続く)

神さまがイエスさまを十字架に引き渡されたのは、ひとりひとり、ひとつひとつの「いのち」をそれぞれ大切に愛してくださっているからです。その「いのち」に寄り添うというミッションを持つ共同体が教会です。私たちはそのミッション(宣教・使命)のために何を差し出すことができるでしょうか。



(前頁より)

5月2日(火) NCC 役員会〔早稲田〕
 9日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会〔管区事務所〕
 9日(火) 日本キリスト教連合会総会・講演会〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕
 15日(月)「部キ連」総会〔大阪〕
 18日(木) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕
 26日(金) 日本宗教連盟幹事会・理事会〔増上寺〕

□各教区

東北

- ・教区主教 ヨハネ加藤博道本人の申し出、及び東北教区第98(定期)教区会期常置委員会の同意、第222(定期)主教会における承認(2月22日付)に基づき、「日本聖公会法規」第12条3項により、本人の健康上の理由によって教区主教退任とする。

なお、退任日を2017年6月30日と定める。

大阪・京都

- ・「特別協働教区」関係発足記念 大阪教区・京都教区合同礼拝 - 聖餐式・協定調印式 - 2017年5月5日(金・祝) 13時 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 司式: 主教 高地 敬(京都教区) 主教 磯 晴久(大阪教区) 説教: 主教 大西 修(前大阪教区主教・前教区間協働担当主教)

神戸

- ・3月4日(土)の主教再選挙では当選者を得られなかった。
- ・廣瀬基督教会新礼拝堂聖別式 2017年3月12日(日) 11時

沖縄

- ・主教座聖堂 三原聖ペテロ聖パウロ教会礼拝堂聖別式 2017年3月20日(月・春分の日) 10時半 司式・説教: 主教 ダビデ上原榮正

□神学校

聖公会神学院

- ・2017年度入学礼拝 4月4日(火) 14時

聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 司式: 校長 司祭 佐々木道人 説教: 特任教員 司祭 西原廉太 入学予定者 ヨハネ相原太郎(中部)、マグダラのマリヤ島 優子(九州)、ウィリアムズ藤田 誠(東京)、ヒルダ藤田美土里(東京)

ウィリアムズ神学館

- ・2017年度入学礼拝 4月5日(水) 11時 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 司式: 主教 ステパノ高地 敬 説教: 司祭 ヨハネ吉田雅人 入学予定者: エレミヤ山本直樹(大阪)、ウリエル仲宗根遼祐(沖縄)



† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 アブラハム植松従爾師父(中部教区・退職)

2017年3月7日(火) 逝去(100歳)

📖 出版物案内

- ・『日本聖公会法憲法規』(2016年第62(定期)総会改訂版) 2017年1月1日付 発行 価600円(税込)

公 示

日本聖公会第63(臨時)総会を下記のように招集いたします。

救主降生 2017年3月6日

日本聖公会総会議長
主教 ナタナエル 植松 誠 ㊤

記

日時：2017年6月17日(土) 11時から16時まで

場所：日本聖公会センター
(牛込聖公会聖バルナバ教会)
162-0805 東京都新宿区矢来町65番地
目的：神戸教区主教選挙のため

以上

公 示

救主降生 2017年3月8日

日本聖公会
首座主教 ナタナエル 植松 誠 ㊤

日本聖公会東北教区、教区主教 ヨハネ 加藤博道師父の願い、及び同常置委員会の同意を得た、東北教区主教の退任について、第222回(定期)主教会において協議し、下記の通り承認いたします。

記

日本聖公会主教会は、「日本聖公合法規」第12条3項により、日本聖公会東北教区主教 ヨハネ加藤博道の退任を、2017年2月22日付で承認する。退任日については、東北教区主教が定める日とする。

以上

《人事》

北海道

司祭 ヨハネ池田 亨	2017年3月31日付	新札幌聖ニコラス教会牧師の任を解く。
	2017年4月1日付	聖マーガレット教会牧師に任ずる。
聖職候補生 ノア上平 更	2017年4月1日付	新札幌聖ニコラス教会勤務に任ずる。
主教 ナタナエル植松 誠	2017年3月31日付	聖マーガレット教会管理牧師の任を解く。
司祭 ヘレン木村夕子	2017年4月1日付	道北分区協働司祭に任ずる。(任期1年)
司祭 コルベ下澤 昌	2017年4月1日付	新札幌聖ニコラス教会管理牧師に任ずる。
司祭 パウロ内海信武	2017年4月1日付	平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での囑託司祭、またバチラー保育園チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 ジェローム大友正幸	2017年4月1日付	道央分区における協力司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)
司祭 アンデレ甲斐博邦	2017年4月1日付	道北分区における協働司祭及び深川あけほの保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)
司祭 ダビデ藤井八郎	2017年4月1日付	函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での囑託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

東北

司祭 フランシス長谷川清純	2017年3月31日付	磯山聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ドミニコ李 贊熙(大韓聖公会大田教区、宣教協働者)	2017年4月1日付	磯山聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。

公 示

救主降生2017年3月28日
日本聖公会
首座主教 ナタナエル 植松 誠

日本聖公会東京教区、教区主教 アンデレ大畑喜道 師父の休養期間延長にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

記

日本聖公会法規第9条第3項により、日本聖公会北関東教区主教 ゼルバベル広田勝一 師父に、日本聖公会東京教区の管理主教を委嘱する。

任期は、2017年4月1日より同年5月31日までとする。

以上

公 示

救主降生2017年3月28日
日本聖公会
首座主教 ナタナエル 植松 誠

日本聖公会神戸教区、教区主教 アンデレ中村豊 師父の定年退職にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

記

日本聖公会法規第10条第1項により、日本聖公会大阪教区主教 アンデレ磯晴久 師父に、日本聖公会神戸教区の管理主教を委嘱する。

任期は、2017年4月1日より、次期神戸教区主教就任の日までとする。

以上

司祭 ピリポ越山健蔵 2017年4月1日付

司祭ドミニコ李贊熙のもとで、磯山聖ヨハネ教会において、嘱託として勤務することを委嘱する。(任期1年)

北関東

司祭 サムエル輿石 勇 2017年4月1日付

榛名聖公会嘱託勤務、前橋聖マツテア教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)

司祭 アンデレ斎藤英樹 2017年4月1日付

毛呂山聖霊教会、高崎聖オーガスチン教会、栃木聖アルバン教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)

司祭 ヤコブ八戸 功 2017年3月31日付

川越基督教会管理牧師を解く。

2017年4月1日付

高崎聖オーガスチン教会並びに新町聖マルコ教会協働司祭を任命する。

司祭 パウロ鈴木伸明 2017年3月31日付

立教学院出向を解く。

2017年4月1日付

川越基督教会牧師を任命する。

司祭 バレク キナ スミス 2017年4月1日付

中央フロリダ教区から北関東教区への移籍を認め、立教学院チャプレンとして出向を任命する。

司祭 フランシス秋葉晴彦 2017年3月31日付

榛名聖公会牧師及び高崎聖オーガスチン教会の管理牧師を解く。

2017年4月1日付

主教座聖堂付きとする。

司祭 パウロ藤井文宏 2017年3月31日付

土浦聖バルナバ教会牧師を解く。

2017年4月1日付

日立聖アンデレ教会牧師を任命する。

司祭 ヨハネ小野寺 達 2017年3月31日付

日立聖アンデレ教会管理牧師を解く。

2017年4月1日付

土浦聖バルナバ教会管理牧師を任命する。

執事 バルナバ岸本 望	2017年3月31日付	主教座聖堂付きを解く。
	2017年4月1日付	土浦聖バルナバ教会牧師補(定住)を任命する。
聖職候補生 マルコ福田弘二	2017年4月1日付	榛名聖公教会の勤務を命ずる。
主教 ゼルバベル広田勝一	2017年4月1日付	榛名聖公教会管理牧師を任命する。
東京		
司祭 ロイス上田亜樹子	2017年3月31日付	立教女学院出向を解く
	2017年4月1日付	聖アンデレ主教座聖堂付任命
横浜		
司祭 パウロ眞野玄範	2017年3月31日付	長坂聖マリヤ教会牧師および甲府聖オーガスチン教会管理牧師を解任する。
	2017年4月1日付	甲府聖オーガスチン教会牧師および長坂聖マリヤ教会管理牧師に任命する。
執事 ペテロ八城 晃	2017年3月31日付	甲府聖オーガスチン教会牧師補を解任する。
	2017年4月1日付	主教座聖堂付きとする。
主教 ローレンス三鍋 裕	2017年4月1日付	南三原聖ルカ教会管理牧師および鴨川聖フランシス教会管理牧師に任命する。
司祭 エドワード宇津山武志	2017年4月1日付	社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム認定こども園あおばとの非常勤チャプレンとして派遣する。(任期1年)
☆ 2月1日付公示、および『教務所便り』3月号に記載の人事公示の訂正:(管区事務所だより第319号)		
(誤) 執事 ヨナ眞栄田 肇	2017年4月1日付	で主教ローレンス三鍋裕のもとで、福田聖公会において、嘱託執事として勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき任期を1年とする。
(正) 執事 ヨナ眞栄田 肇	2017年4月1日付	で司祭バルナバ田澤利之のもとで、福田聖公会において、嘱託執事として勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき任期を1年とする。
大阪		
司祭 ヨハネ古澤秀利	2017年3月31日付	聖ヨハネ学園チャプレンの任を解く。
司祭 マルチン韓 相敦(ハン サンドン)	2017年4月1日付	聖ヨハネ学園チャプレンに任命する。
主教 アンデレ磯 晴久	2017年4月1日付	司祭マルチン韓相敦の休暇中、高槻聖マリヤ教会管理を委嘱する。(～2017年7月31日)
司祭 ペテロ岩城 聰	2017年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと高槻聖マリヤ教会において嘱託司祭として主日勤務することを委嘱する。(～2017年7月31日)
神戸		
主教 アンデレ中村 豊	2017年3月31日付	定年により退職とする。
執事 イサク坪井 智	2017年3月25日	公会の司祭に接手される。
執事 セバスチャン浪花朋久	2017年3月25日	公会の司祭に接手される。
聖職候補生 テモテ遠藤洋介	2017年3月25日	公会の執事に接手される。
司祭 セバスチャン浪花朋久	2017年3月25日付	浜田基督教会副牧師に任命する。

執事 テモテ遠藤洋介 2017年3月25日付 広島復活教会牧師補に任命する。

執事 リチャード池澤隆輝(休職)

2017年3月31日付 願いにより退職を許可する。

《教会・施設》

廣瀬基督教会(神戸) 2017年3月12日 礼拝堂聖別

沖縄教区主教座聖堂 2017年3月20日 礼拝堂聖別

三原聖ペテロ聖パウロ教会(沖縄)

聖ヨハネ乳児保育園(京都) 2017年4月1日付 施設建て替えによる名称変更

(新名称) 聖ヨハネ保育園

新園舎・礼拝堂完成予定の9月頃まで以下の連絡先

〒920-0942 金沢市小立野 2-40-19(仮園舎)

TEL 076-264-2006 FAX 076-264-2086

※金沢聖ヨハネ教会の住所・FAXも上記と

共通 TEL 076-221-6715



📖 管区・出版物案内

『日本聖公会要覧』2016年

- ・4月上旬完成予定(予価1,000円)
- ・お問い合わせは管区事務所まで
(電話:03-5228-3171 担当・金子)

九州教区・九州地震被災者支援室より・第8信

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますよ。

艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」ロマ8:35

支援活動～被災者を「孤立させない」ため～の取り組み

† 主の平和がありますように

九州地震発生からまもなく11ヶ月となります。これまでの皆さまの篤い祈りと様々なご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

◆まもなく一周年。感謝します。

前震が発生した日4月14日と本震発生の16日を迎えると、九州地震発生から丸一年となります。被災地では今でも震度3程度の余震が続いています。

顧みますと、九州教区の被災者支援活動は迅速な立ち上がりだったと思いますが、当初から常駐の活動責任者を配置できず、基本的には活動責任者3名の交代制により、その他のスタッフ、

教区内外の多くのボランティアの協力を得て運営してきました。

10月には、熊本聖三一教会に置いていた拠点のボランティアセンターを、借り受けた住宅へと移し、それまでの週日「6日間体制」から毎週水曜から土曜までの「4日間体制」へと変更し、活動を継続してきました。

「大被害地区」(今も地震の大きな爪痕が残る地区)に繰り返し通っていると、素早く家を再建し、新しい一歩を踏み出した方々がいる一方で、未だに壊れた家や物の片付け、生活の場の確保など具体的課題を前にし、先が見えず茫然と立ち尽くすような状況にある方がおられることを目の当たりにします。そして時間の経過とともに

に解決に向かうというより、かえって物質的にも精神的にも行き詰まりを感じておられ、多種多様な支援の必要が出てきていることを感じます。

◆**拠点を再度熊本聖三一教会へ。「2日間の活動を毎月2回」実施**

このような現実を前にしながら大変心苦しく感じますが、私たちが細々と継続してきたこの活動体制を、一周年を節目として見直すこととし、現体制での活動は4月1日をもって終了。今後は、拠点のボランティアセンターを再度熊本聖三一教会へ戻し、当面「2日間の活動を毎月2回」実施していくことといたしました。

基本的には、これまで出会ってきた方々のところへの巡回・訪問活動を中心とし、必要な作業等があれば調整し対応してまいりたいと考えています。

これまでと比べ、必要な作業等に即応できにくいことなどが考えられますが、地元・熊本聖三一教会との連携をさらに強め、私たちが掲げてきた、被災者を「孤立させない」ための取り組みを継続してまいりたいと思います。

◆**4月5日(水)～8日(土)までボランティアセンター移転作業を実施。**

「熊本聖三一ボランティアセンター」は、熊本市東区御領より、再度、

熊本市中央区水前寺公園28-14 熊本聖三一教会 となります。連絡先はこれまでと変わらず、熊本聖三一教会 TEL/FAX 096-384-3202 です。

新しい体制での

初回は、4月21日(金)・22日(土)

第2回は、5月2日(火)・3日(水・祝)を予定しています。

宿泊は、熊本聖三一教会です。遠方の方は前泊も可能です。

◆**少数ボランティア体制での活動です。**

・ボランティアを受け入れますが、大人数の

受け入れはできませんので、原則、一度に5名までといたします。九州教区のホームページにて活動スケジュールを予告いたします。まずは電話にて、現地コーディネーター(熊本聖三一教会牧師山崎貞司 司祭携帯電話 090-4489-3878)へご連絡ください。そしてこれまで同様にご登録(各教区事務所を経由し九州教区事務所へFAX)をお願いいたします。

- ・活動内容の都合上、日程調整をお願いしたり、お断りする場合があります。
- ・活動の様子は、日本聖公会九州教区のホームページ内でご覧になれます。
- ・ご質問、またご不明な点はお問い合わせください。

※**活動の手配・調整の都合上、ボランティア登録は1週間前までにお願いします。**

◆**来る1周年を覚えて、共に祈りましょう。**

今年は、前震の発生日4月14日は聖金曜日(受苦日)、また本震の発生日4月16日はちょうど復活日にあたり、一周年の記念日当日に、特別な礼拝やプログラム等を企画することはいたしませんでした。しかし199人も貴い命が失われたこと(3月11日現在。関連死含む)、また多くの人々が、今尚困難を抱えながら過ごしておられることを覚えて、私たちがこれからますます支え合うことができるように心を合わせて祈りたいと思います。各教会また個人で、黙祷、また「九州地震被災者支援のため」の祈りをぜひお捧げいただければと思います。

これからもお祈りと、ご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

2017年 3月13日

九州教区主教 ルカ 武藤 謙一
九州教区・九州地震被災者支援室
室長 司祭 マルコ 柴本 孝夫

世界の聖公会の動向

—ブルンディ聖公会の植樹キャンペーン
/ 米国聖公会の動向—

渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○ ブルンディ聖公会、5年間で1千万本の植樹を企画

堅信式、洗礼式、結婚式などの特別な行事を記念するための植樹は、南アフリカと中部アフリカの多くの地域で「ヤング・グリーン・アングリカン」運動によって提案され、促進された後、ますますポピュラーになっている。ブルンディ聖公会はこの活動をさらに進化させ、1,000万人の国民一人一人に一本の植樹を計画している。教会は今後5年以内で「1人1ツリー」計画の達成を目論んでいる。

この活動の目的は、森林を保護し、維持し、環境を保全する事である。先週の報告によると、ルタナの丘陵地帯に住む難民の安全確保のために山腹に樹木を植えることで、タンザニアからの難民が住む地域の自然を改善するだけでなく、猿やヤマウズラを含む野生動物の保護に役立つという。シェルターの建設資材に加えて、洪水防止に役立ち、清潔な飲料水の新たな供給源となり、農業収穫量の増加をもたらした。

この新しい植樹キャンペーンは、米国聖公会の支援機関である Episcopal Relief & Development (ERD) によって支援されている。ブルンディの複数の地域に苗床を育てる拠点を設け、初年度の間は公用地および私有地に100万本の植樹を目指している。

活動開始記念式が、ルモンゲ県のムフタ (Muhuta) コミューンで行なわれ、教会の指導者たちは政府の代表者と市民社会団体と協力して、タンガニカ湖の湖畔に植樹を行なった。

ブルンディ聖公会首座主教の Martin Nyaboho 主教は、住民は自分たちの環境に責任を

持って行動すべきだと述べた。ブルンディの文化庁大臣は、環境への貢献と関心に対して教会に感謝を表明し、森林地域の減少が将来重大な結果をもたらす可能性があるとして述べた。

○ ブルンディ聖公会が性暴力の被害者のための避難所を設立

ブルンディ聖公会は性差別による暴力の被害者を支援するために126名に訓練を受けさせている。カウンセリングやその他の専門家の支援を提供するための避難所を設立している。首座主教 Martin Nyaboho 主教は、「教会はあらゆる形態の暴力を終わらせるためにこれまで以上に結束しており、管区の71年の歴史を通して、性暴力を含む人間性を侮辱する行為と戦うために常に行動してきた」と述べた。

ブルンディ聖公会にはジェンダーに基づく暴力問題の専任コーディネーターとして Jeanne Francoise Ndimubakunzi 司祭が専任されている。彼女は、暴力を根絶するために教会と地域社会のリーダーが協同することは、性暴力の減少をもたらす可能性があるとして述べた。「2か月前に施行したブルンディ政府の新しい暴力防止法に非常に勇気づけられている」と彼女は語った。「その法律は、被害者支援のためばかりでなく、性差別に基づく暴力行為の加害者が刑罰を受けないままであることを根絶するために必要な力を私たちに与える。」

世界の他の地域と同様に、性差別に基づく暴力の被害者の大半は女性だが、実は男性も免れているわけではない。ブルンディでは、性暴力事件の被害者の約20%は男性である。

○ 米国聖公会がリバイバルイベントを計画「イエスのために心を入れ換えよう」

米国聖公会は今後2年間に、イエスのために心を入れ換え、教会の信徒が福音を述べ伝えるための準備をし、教会活動に参加していない人々が加わることを歓迎するための一連のリバイバルイベントを計画している。

この数日間のイベントでは、力強い礼拝や説

教、地元のアーティストやミュージシャンの参加、信徒個人の奨励やストーリーテリング、話題のスピーカー、地元の社会活動への招待、若手指導者との関わり、そして宗教運動に活発ではない人々との積極的な対話などが企画されていると管区の広報部が声明の中で述べている。

「聖公会リバイバルを計画していると聞いたときの驚いた反応が大好きです。」とStephanie Speller司祭（宣教・和解・創造物管理部門の総裁主教スタッフ）は語った。「なぜ今までしなかったのか。リバイバルは神と共にいる人々の心の叫びです。又、それは大声をあげて神の愛をお互いの間や新しい人々と共有する強い意志の表れであり、キリストの取った行動そのものです。」

「すべてのリバイバルには、聖霊が植えた種を水につけ続けるための、フォローアップの明確な計画があります。新たな教会或いは宣教地域が生まれるかもしれません」とSpeller司祭は語った。

「コミュニティで新しい、調和のとれた関係から生まれた記念的宣教（Jubilee Ministry）であるかもしれません。何よりも、私たちはこれらのリバイバルによって信徒や周辺住民がイエスへの愛をより深めることに役立ってほしいと願っています。神は彼らが以前に会ったことのない愛と解放と命を与えてくださるのです。」

この運動の助言者でありダラス教区で伝道宣教師を務めているCarrie Boren Headington

師が次のように付け加えた。「これらの『Jesus Movement』の復活はキリストを愛し、追従し、宣教と和解というキリストの働きに加わるために教区を支援する事です。私たちは数ヶ月前から、指導者たちのために彼らが置かれた場所について学び、隣人や地域社会と忠実な関係を築くための研究と訓練を始めています。その後、現地のチームと協力して、言葉と行動を基にした福音を共有するための感動的な集会を形作ります。」

1746年11月に奴隷の子として生まれ後に米國聖公会の最初のアフリカンアメリカ人司祭となったAbsalom Jones師を記念して、最初の集会がペンシルベニア州のピッツバーグ市で2月3日-5日の期間開催される。引き続き西ミズリー教区、ジョージア教区、サンワキーン教区で会が開催され、その後2018年7月に開催予定の英國聖公会の宣教大会に加わる予定である。

この春東京方面に来られた

聖公会の若者たちへ !!

毎月第4土曜日に集まろう

14:00 ~ 17:00

場所：東京諸聖徒教会（文京区千石）

問合せ先：seinenkai.tko@gmail.com

東京教区青年会世話人会

（スタッフ）一同

□日本聖公会『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面での確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の定期購読についてのお問い合わせが増えておりますので、ここに御案内いたします。

本誌は原則として年に10回発行、1年分の購読料は1,000円です（特別増刊号なども含む）。複数年分まとめてお支払いいただく場合

は¥1,000の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年¥500×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。電話：03-5228-3171

教区報再録

日本聖公会最北端の教会

稚内聖公会を見つめる一

★北海道教区報「北海之光」

○ 稚内聖公会管理牧師から状況を聴取し、協議の結果、冬期間の教会の建物閉鎖とこの間、他所で礼拝を行うことを承認した。併せて、稚内聖公会が抱える困難な状況を踏まえ、日本の最北端に於ける宣教の展望について検討する「稚内聖公会に関する特別委員会」を常置委員会の下に設置する事を承認した。(2016年11月号・常置委員会報告から)

○ 11月20日、教区主教巡回日を迎え、6名で夜の聖餐式。礼拝後、ストーブを背に「お茶の会」。近況と教会の「これから」について語り合う。礼拝堂は、クリスマス礼拝後より春まで閉鎖、他所において聖餐式を行う。正田兄経営の「第一旅館」の宿泊も最後となる。誠に感慨深し。本原姉経営の「本原商店」も年内で営業を終える。21日、教会の冬囲いを終えて離稚。植松主教夫妻は海沿いの道を、久末・広谷組は天塩川沿いを南下。猛吹雪に見舞われ、いずれも命がけの帰路であった。(2016年12月号・教会だより欄「稚内聖公会」の項)

○ 12月より教会の建物を閉鎖。このため今年のクリスマスは、日本基督教団稚内教会の礼拝と祝会に、そろって参加する。歓迎してくださった伊藤大道牧師と教団の信徒の皆さんに心から感謝する次第。おかげで心温まるクリスマスとなる。

終了後、礼拝堂をお借りして祈祷書による聖餐式。本原満栄姉は、来年3月に旭川の整形病院にて大きな手術を受けられる。正田兄も体調すぐれず。乞う加祈祷。(2017年1月号・教会だより欄「稚内聖公会」の項)

○ 教会前の「第一旅館」の廃業に伴い、正田さんご一家も南稚内へ転居。また本原満栄姉経営の「本原商店」も昨年末をもって営業を

終えられた。長年教会のまわりにあって親しまれてきた二つの老舗の閉店は淋しい限り。長年の地域への貢献に感謝し、心から慰労申し上げたい。本原さんは近く旭川の病院に入院され整形の大きな手術を受けられる。痛みの募る日々、主の支えがあるように。自宅にて療養中の正田さんの健康が回復されるように。春の訪れを待ち望む今日この頃である。(2017年2月号・教会だより欄「稚内聖公会」の項)

教区報再録

神様を呼吸した時間

— 二人の大先輩の逝去 —

★横浜教区報・2017年2月号

○ 「櫛の坂みち」主教ローレンス

クリスマスの前に佐藤富子伝道師が逝かれました。104歳でした。お住まいになっていたベタニヤホームのお世話がよいのでしょうか、ほぼ最後まで自分の身の回りのことは自分でしておられました。昔のことで知りませんでした。が芦屋聖使女学院という婦人伝道師の養成所があって、そこを卒業して最初の任地が大連聖公会。戦中戦後の混乱期を含めて東北、神戸、北海道で奉仕された後に、当時まだ大磯にあったベタニヤホーム主事として着任されました。そして退職後もベタニヤにお住まいでしたので、ベタニヤ以外でお交わりを持つ機会は多くはありませんでしたが、横浜教区の大先輩教役者でした。わたし自身は北海道でお目に掛かったこともありますし、一緒に聖地巡礼に行ったこともあり懐かしいお方でした。最後はベタニヤチャプレンの小林祐二司祭とお見舞いを繰り返しましたが、長きにわたり与えられた務めを、果たし終えて与えられる安息をお祝いする思いでした。

もうお一方懐かしい方が逝かれました。108歳の修女様。修道者の葬儀は会によって違うでしょうが、簡素なものだと思います。イエス様が

十字架から降ろされた時のように、飾りもなく茨の冠だけを頭から外して葬られたことに倣うのが、修道者だと聞かされています。報せも葬儀が終わってから来ます。衰えて何もできないようであっても、神様を呼吸しているような日々でした。最後の病床聖餐の後にも、はっきりとありがとうと言われたそうです。

わたしたちも時々立ち止まって、残された時間にあって神様を呼吸しているか、神様を生きて

いるか、神様を喜んでいるかというと問うてみたいものです。

お二人の大先輩をバタニヤの愛唱聖歌「遅れ先立つ 世のならい いずれが先に 召さるるも ひとつ枝なる 花と咲きいで ともに み園に 匂わまし」でお送りしたいと思います。

読者の声・教会の声

「管区事務所だより」への期待

■春〇〇番、が吹き荒れています。いつも「管区事務所だより」をお送りくださり、ありがとうございます。おおよその動きが分かり、それだけでも助かります。

教会という所は、もともと閉鎖的で内向きですから、ニュースの発信のない所です。他所の情報の取りにくさというのがあるかと思います。編集の御苦労が分かります。聖公会新聞がなくなった今、「管区事務所だより」が貴重な情報源です。事務所だよりに大いに期待します。

(東京教区聖オルバン教会 吉松英美)

■聖公会新聞がなくなり、貴誌が唯一の情報源です。有り難うございます。(司祭・山根貞夫)

*

*

「パラオの海に手向ける短歌」

昨年、天皇、皇后はパラオでの戦死者を覚え、追悼の旅をされました。パラオと聞くと、私は戦前ヨーロッパ航路を往復する商船の機関長だった父が、船と共に召集され、彼(か)の島の港近くで魚雷に撃たれて戦死したことを思い出さずには居られません。

駿河湾の渚に立てば、太平洋の遥か彼方に続くパラオの海にまで思いは馳せ、戦争の虚しさを痛感致します。

一歩ずつ砂利に足埋め岸辺へと 更に進めば限りなき海

この海の果て 父はなお眠れるかパラオの沖の商船の底

(沼津市 菊田米子)

(また別の日に 短歌四首) 個人の心の片隅に置かれたままになっている想いも、兄弟姉妹と共有すれば共に成長していくことが出来ましょう。年老いた者のつぶやきとして、お聞きください。(リベカ 菊田米子)

轟々と黒い機体が繁く飛ぶ 駿河上空おどろおどろし

静かなる駿河の海に 北朝鮮の動きの故か黒き艦浮く

海鳥の群れ銀の羽返しつつ 雨後の中空 円描き舞う

真青なる大空のほかなにもなし 「メメント・モリ」が脳裏をよぎる

—メメント・モリ: 死を記憶せよ(ギリシア・ストア派)

*

*

◆この欄への原稿をお待ちします !!

「読者の声・教会の声」欄に御寄稿ください。教会論・提言・エッセイ・詩歌作品・管区事務所への要望…など、テーマは自由。メール、または郵便で、広報主事・鈴木一宛てにお願いします。

【新刊紹介】

東京教区資料保全委員会編

『故 斉藤タマイ姉の短歌』

斉藤タマイ姉は故斉藤章二司祭（北関東教区）の夫人。長らく北関東教区高崎と前橋の教会と幼稚園などに奉仕された。晩年は斉藤司祭の故郷である神奈川県津久井郡城山町（現在は相模原市）に居住、八王子復活教会の信徒として過ごし、2014年（平成26）2月4日に百歳で亡くなられた。本書は、太平洋戦争下、タマイ姉が司祭夫人として北関東の各地でうたった作品と戦後の朝日歌壇入選歌とを収録し、タマイ姉の文章「メリーランド交流について」、水戸高等女学校を経て進んだ仙台の日本聖公会立青葉女学院のことを記した「わが幻の青葉学院」を添える。

1940年（昭和15）に斉藤章二司祭と結婚され、牧師夫人として教会を守った歌は読む者の心に染みる。

君説きてわれ弾き女工ら歌いたりこの糸の町
廃れしと聞く

幾人が去りまた来たらん教会の床磨き生く
力尽くまで

章二司祭が召集令状により戦地に送られ、タマイ姉が守る教会には月に一度特高（特別高等警察）が尋問に来た時代の作品。

特高に糺されすがりし会堂の木椅子もわれ
と傷負いて古る

蟻螂の壁にもたれしなきがらはひそかに逝
きしひとの死に似る

戦後もタマイ姉の苦労は続くが章二司祭のシベリアからの帰国でひとまず落ち着く。

戦いの中に三年書き合いし夫との手紙嫁ぐ
娘に見す

爆死者のありし草むら踏まれつつ時の流れ
に忘れられゆく

戦後の昭和三十年代以降は朝日歌壇の入選歌が多くなる。教会生活をうたった作品は撰者・近藤芳美の選に特に多く採られた。

病む夫（つま）に代りわが引く太き綱鐘は祈
りの時を告げゆく

細き肩寂しきまでの素直さに母なき少年ミサ
に奉仕す

洗礼の水注ぐ時みどり子を抱く母の面刻み
たる如

夕暮れて古城の如き教会に吾が灯ともせば
夫の鐘打つ

ミサ曲を弾きて生ききし半生の手垢しみたる
オルガンに触る

シベリアの捕虜に祈りの自由ありと説きし残
れり夫の原稿

タマイ姉が高崎在住時代の歌で、どれもが近藤芳美の選に入っている。近藤芳美（1913～2006）は戦後のアララギを代表する歌人。その終焉近くに受洗したと聞く。

次の歌はタマイ姉が神奈川県に居住してからのもの。2001年の作と記されている。

後継者なき修女会の夕寂し老いを介護し修
女らも老ゆ

常に時代と教会を凝視した斉藤タマイ姉のあゆみをたどることから学ぶものは大きい。編者・諫山禎一郎氏の解説「斉藤タマイさんのこと」「斉藤章二司祭のこと」は懇ろで心を打つ。

A 5判96頁・650円 購入の照会は東京教区まで。

（記・管区広報主事 鈴木 一）

東京教区資料保全委員会発行

前島 潔

『日本聖公会史 前編』（1,000円）

前島師は戦前の立教学院のチャプレン、史学者。後編は現在制作中。来春に発行の予定です。